

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290600034		
法人名	社会福祉法人 いわみ福祉会		
事業所名	グループホーム モモ		
所在地	島根県江津市敬川町1230-1		
自己評価作成日	平成22年10月31日	評価結果市町村受理日	平成23年1月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームに入所された以降も今までの生活が全て途切れてしまわない様、ご家族の協力を頂けるように努めている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou-c.fukushi-shimane.or.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 応援団
所在地	島根県浜田市相生町3948-2相生塚田ビル1階103号
訪問調査日	平成22年11月30日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の理念を基にグループホーム独自の理念を掲げ、日々のケアに取組んでいる。同じ建物には小規模多機能型居宅介護事業所が併設され、利用者はお互いに自由に行き来し交流している。入ってまずアイランド型のキッチンがある。居間とキッチンの境がなく、利用者も積極的に台所に立ち、食事の準備が行なえる。居間全体においしそうな匂いが漂い利用者の嗅覚を刺激し、食事への関心が高まるよう配慮されており、法人が食事に力を入れているのが伺える。職員も同席し和やかな雰囲気の中で食事が行なわれている。センター方式やひもときシートを活用し、職員は利用者の理解を深め一人ひとりの能力に応じて力が発揮できるよう取組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念をもとに事業所理念をつくり、実践の振り返りを会議や日常の中に取り組んで行くように努めている。	連絡ノートの表紙に理念が掲載されており、職員がいつでも目に付くようにしている。アンケートを実施し、理念の実践状況の振り返りを行なう。	今後益々職員が理念を理解し、共有することで、同じ目的をもって寄り添い、実践につなげて頂きたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に散歩や買い物に出かけ、地域の人たちと挨拶を交わしたり話をしたりしている。また、地域の保育所との七夕会、雛祭り会などの交流をもつようにしている。	日常的に近隣の方々と挨拶を交わすなど交流も深まりつつある。毎月歌やぬりえ教室などのボランティアの方の来所もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に出向き認知症の方の理解と接し方について講演を行った。また、認知症サポーター養成など地域貢献を職員が行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的開催し現状報告、意見を伺い活動に反映するようにしている。推進委員の方からの意見をいただき、御家族、地域の方が参加出来る夏祭りの開催に取り組む事が出来た。	運営状況を中心に報告を行ったり、参加者から出された意見を取り入れている。3年目を向かえ、運営推進会議が定例化してきている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括担当者、他の事業所との連絡会に参加し、事業所の抱える課題など意見交換を行った。	連絡会や運営推進会議などで情報交換を行なっている。管理者は日頃から市の担当者と相談し易い関係作りに努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	自施設研修や認知症実践者研修など外部研修にも出来るだけ参加し、職員の学びと気づきの機会を持つようにしている。利用者の思いをくみ取ってゆけるようひもときシートなどの活用に取り組みを始めた。	アンケートやミーティングで常に身体拘束をしないケアについて話し合い、職員はよく理解している。日中玄関は常に開錠状態である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で身体拘束廃止委員会が中心となり学習の機会を持つようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修において権利擁護、成年後見制度について学習の機会を深めている。現在グループホーム入居者においては制度の利用者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	定期的な面談の機会を持ち疑問点や不安な点について十分説明するように心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置し、ご意見や要求に対して職員に周知すると共に、外部へは運営推進委員会並びに広報誌を通じて公表予定。事業運営に反映できるようシステムを構築している。	月に1度は家族の訪問があり、訪問時に意見や要望を伺っている。家族からはいろんな意見が上がり、その都度職員で共有し、実現するよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の各事業所で会議を設け、月1回全体で会議を設けている。そこで職員の意見を聞き、代表者会議にて反映する機会としている。	必要なことは会議で話し合い、職員からの要望で勤務時間の見直しや・業務改善を行った。職員が希望する研修に参加できるように配慮もされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己申告制度及び勤務状況表を法人全体の取り組みとして導入。代表者が確認でき就業環境の整備に反映できるシステムを構築している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の目標や研修希望をアンケート調査し、外部、内部研修計画を策定。職員の質の向上及び事業所の質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業者に見学など交流の機会を持つようになっている。地域包括担当者、他の事業所との連絡会に参加し、事業所の抱える課題など意見交換を行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者、ご家族の言葉に耳を傾け思いを受け止めるよう努めている。ゆっくりと話を聞く時間を持つように心がけ、利用者の気持ちに共感して接してゆけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	平成20年7月以降の新規の入居はないが、相談、見学に来られた時はゆっくりと話しやすい雰囲気作りを行い、要望など聞かせていただくようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時本人やご家族の思い、状況を確認させていただき、必要な支援の提案をさせていただき、対応について検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理や洗濯物、日常的に使うものの準備など声をかけ出来るだけ参加して頂けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族からの意見や要望が引き出してゆけるよう、面会時や日常の事などを電話や手紙での連絡を行い、話しやすい関係をつくるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や家族との外出、外泊は自由に行って頂いており、なじみの美容院などに出かけたりして頂いている。また、職員とのドライブなどで入居前の住居周辺にドライブに出かけたりしている。	ご自宅に一時帰宅が行なえるよう支援し、また昔からの馴染みの方がホームに尋ねてこられるよう馴染みの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係がうまくゆくよう、個別に相談に乗ったり、みんなで楽しく過ごす時間や場面作りをするように職員が調整役となれるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了された方は現在おられないが、継続的な関わりが必要な方については相談支援に努めたいと思う。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を取り入れてアセスメントをするようにしている。日々の関わりの中での利用者の言葉や表情から、気持ちを推し測ったり、確認するようにしている。また、ご家族からの意見も伺うようにしている。	利用者との日々の会話や行動から思いや意向を把握するよう取組んでいる。本人の望んでいることが何であるか考え、不安感を取り除くようなケアに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の面会時に今までの生活の状況や楽しみにされていたこと、等聞かせていただきながらグループホームでの生活に生かしてゆけるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活リズムを把握するように努め職員間で連携し関わるようにしている。安心して過ごしていただけるよう、出来ることに注目しその人らしさがある生活が送れるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族には日ごろの関わりから意見を伺うようにし、月一回のミーティングにて変更点等スタッフ間で検討周知するようにしている。	情報は職員間で共有し、見直しに関する気付きを協議し、管理者と職員が一緒に介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別記録に記載し職員間で情報を共有するようにしている。必要に応じて適宜見直しを検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の意見を柔軟に取り入れるよう対応している。たとえば外泊の延長や短縮など		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で可能な検診には出かけたり、協力施設からマイクロバスを借り外出の機会を設けている。また、地域からの大正琴の演奏会などを開催の申し出がある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人ご家族の希望を聞きながら受診を行っている。	2週間に1度協力医の往診がある。眼科や歯科の通院は家族にお願いしているが、職員が付き添う場合には、受診の情報に付いて家族・スタッフに報告し、医療の情報の共有を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状況変化時は看護師に連絡し、主治医との連絡対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院関係者と情報交換を行いご家族の意向も踏まえて退院の調整を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在重度化しグループホームでの生活が困難な利用者はないが、重度化や終末期を想定し、家族の意向を伺い事業所として支援できる内容を説明し、必要に応じ入所施設の情報提供と入所申し込みの支援に努めている。	重度化や終末期について、面会時などにご家族の思いを聞いている。具体的なケースは無いが、看護職員が利用者の健康管理を行い、今後の支援についての状況把握に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急蘇生などについての研修会を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行い緊急時に対応できるよう職員、利用者の意識付けを行っている。又、地域にも運営推進会議を通し協力要請を行っている。	今年初めて夜間を想定した避難訓練を実施した。運営推進会議で災害対策についても話し合い、地域との協力体制作りにも取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年長者としての敬意を忘れないように努め言葉使いに気を付けている。	一人ひとりに合わせた対応に取り組んでいる。言葉かけや対応は全職員で共有し、尊厳を傷つけないよう注意を払っている。	プライドを傷つけず、落ち着いた生活が今後も継続出来るよう職員のスキルアップに期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアの際にもご本人の気持ちを大切に、自己決定しやすい形で声をかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴など、一人一人のペースを大切にして関わるようにはしている。日々の日課については充分とは言えないが、外出、散歩など意向を聞きながら行うようには努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	単独又はご家族と一緒になじみの美容院に出かけて頂いている。衣類については買い物希望に合わせて外出したり、ご家族に選んでいただいたりし好みの服が着られるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえ、味見をお願いしたりしている。時には味付けなどをお願い出来るだけ参加して頂くように努めている。食べたい食事をうかがい献立作成に努めている。	居間とキッチンの境がなく、利用者が積極的に調理に参加できる環境が工夫されている。直接調理に参加できない人も近くのスーパーと一緒に買い物に出掛けるなど利用者力を生かすよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	平均的な高齢者の摂取カロリーと水分量を目安に作成された協力施設の栄養士の献立を参考に、利用者の嗜好や状態に合わせ提供。食事以外の水分についても定期的なお茶の時間の他、何時でも摂って頂ける様努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様の生活のペースに合わせ、毎食後の口腔ケアをして頂けるよう支援している。また、義歯の方は出来るだけ夜間は洗浄剤などを利用して清潔に保てるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用して誘導し、トイレでの排泄をして頂けるよう支援している。	半数の利用者は布パンツで生活している。一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛けすることでトイレでの排泄に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンをチェックし水分補給や腹部マッサージ、食事を工夫するようにし、下剤に頼りすぎないように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴の方が2名、他の方は隔日入浴をされているが、希望に沿うよう出来るだけ柔軟に対応するようにしている。	一番湯が好きな方は早めに、その都度希望を聞きながら入浴に誘っている。入浴の時間帯は個々に定着しており、生活のリズムを崩さないように対応し、安心・安全に入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を出来るだけ行って頂けるよう声をかけ、生活のリズム作りにつなげている。睡眠が十分取れるよう、夜間の排泄ケアなどのかかわりについても検討したりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬についてはケースファイルに薬情報を添付し、新しく処方があった場合には引き継ぎ簿などで副作用などの留意事項を伝えるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花を育てたり季節の行事に合わせた食事づくりなど参加して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的には近所の商店に買い物に出かけられる機会をつくり、利用者に職員が同行している。近所で購入できない物は車で出かけて行き購入できるように支援している。またご家族と外出の機会が出来るよう、ご本人の思いを伝えることもある。	午前と午後の散歩コースがあり、日常的に散歩に出かけている。月に一度は必ず面会に来る家族が多く、一緒に外出するよう促している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金として管理させていただいているが買い物希望などご本人の意思に合わせて対応するようにしている。現金の所持については、ご家族との調整も必要であり、現在は所持されている方がいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人、ご家族の希望時は取り次ぐようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの壁面を利用し季節の作品飾りなどを行うようにしている。リビングは畳やソファなどでそれぞれの好みの場所で過ごしていただいている。	利用者と一緒に行った作品や行事の写真は利用者と一緒張る場所を考えている。テレビの横に置かれている人形は利用者の癒しとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	オープンな空間ではあるが、職員の視線が気にならないような椅子の配置などの場所をつくっている。それぞれにその時々での居場所が出来ている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使っておられた家具や寝具などご家族の協力をお願いし、安心して過ごして頂ける環境作りに配慮するよう努めている。	入居者の馴染みの物を持参してもらっている。仏壇やテレビを部屋に持ち込まれ、思い出の品があり、居心地のよさに配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	なるべく自立した生活を継続する為に必要個所に目印をつけたりしている。個々の状態に応じた援助を行っている。		